コロナ禍における「マスク」に対する捉え方の変化
～ツイートによる分析～

学生番号: 1832093　氏名:舘野良介
指導教員:山崎治　准教授

1. はじめに

2020年に流行した新型コロナウイルスの影響で、感染予防のためにマスクを着用して外出することが一般的になった。それから2年経過した現在では、熱中症対策として屋外で人と十分な距離があり、会話などを行っていない状況ではマスクなしでもよいとの見解が政府・地方自治体から示された。この状況の変化で、マスクをつけることに対して人々がどのような印象を持っているかをTwitterの投稿内容から整理し、その特徴をとらえていく。

2. 準備

ツイート収集の調査を行うにあたって、TwitterAPIを用い、Twitterからのテキストデータを取得するプログラムを作成した。また、収集したツイートを分析するために、計量テキスト分析およびテキストマイニングに用いられるフリーのソフトである「KH　Coder」 (樋口、2022)を準備した。

3. 「マスク」を含むツイートの調査

準備で作成したプログラムを使用し、収集したツイートの本文を、KHCoderの機能である「抽出語リスト化」と「共起ネットワーク」を用いて分析を行う。

3. 1　方法

自作プログラムをpythonで動作させ、ツイートデータの収集を行った。マスクに対する印象を調査するため、ツイートの本文に、「マスク」の単語を含むツイートを収集した。1度のデータ収集で、100件のツイートを収集することにした。さらに、分析に使用するデータの量を考えて、収集間隔は2日とし、6月5日から7月11日までの期間で計13回、ツイートの収集を行った。

3. 2　結果

KH Coderの「抽出語リスト化」の機能を用いて、「名詞」と「サ変名詞」の品詞に分類された単語に注目し、その出現頻度の推移をグラフ化した。図1は名詞「コロナ」がツイート内に出現する頻度を示す。このことと、コロナ感染者数を表す図2から、感染者が増加した日に「コロナ」を含むツイートが増えることがわかった。

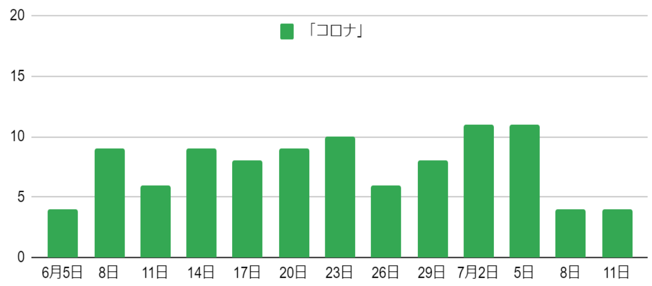

図1　ツイート中の名詞「コロナ」の出現頻度

図2　1日ごとのコロナウイルス感染者数
https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/

共起ネットワークに基づく分析では、出現頻度の高い単語との関連性が見つけられなかった。ツイートの分析を行うにあたって、ツイートの文字数が少なかったため、共起ネットワークで関連性が分かりやすく表示されなかったと推測される。

4. おわりに

本研究では、約1か月の期間にわたりツイートを収集し、共起ネットワークや抽出語の分析を行った。マスクに対する印象を明確にするために、単語そのものが持つ意味を分析して、マスクに対して肯定的か否定的かを読み取る手法が有効だと考える。

参考文献

樋口, 耕. (2022). KH Coder. KH Coder: 計量テキスト分析・テキストマイニングのためのフリーソフトウェア. Retrieved August 5, 2022, from https://khcoder.net/